

## 年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成26年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第29回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第7回JART・JSRT合同学術セミナー、第73回定期総会などに出席し、本会の考え方を説明しご理解を頂いたところです。

さて、昨年は国連COP19がポーランドで開催され、地球温暖化対策の会議が行われました。COP19では、京都議定書の有効期間が終わる2020年以降の温室効果ガスの削減目標をどのように決めるかが議論されました。途上国にも削減義務を負わせたい先進国側と、これまでの枠組みを維持したい途上国側で意見が対立し、最終的な合意は得られませんでした。今後は全ての締約国に対し、準備を整えば、削減目標を2015年3月までに提示するよう求めています。地球温暖化は人類が抱える大きな課題の一つであります。世界各国は自国の利益だけを求めるのではなく、自国民と他国民が共に平和に暮らせる世界をつくり上げていく努力をすべきであります。わが国をはじめ世界の指導者には、地球が抱えているさまざまな問題に対して前向きに検討し「地球は一つ」という視点から、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で発展することに努めていただきたいと願うものです。

いま、世界の人々は戦争の時代から平和の時代を求めています。大量消費の時代からエコロジーの時代を求めています。秘密の時代から公開の時代を求めています。経済至上主義から環境循環型社会を求めています。その鼓動は大地から静かに伝わってきています。動植物たちは大自然の営みを謳歌し、人類は大自然の守り人としての意識に目覚め、確かなる所から身近なところから、地球環境の保全のために活動を開始しています。

医療者の使命は、けがや病気で苦しんでいる患者さんの痛みに共感し、温かい手を差し伸べることです。温かい手の中に医師がおり、看護師がおり、診療放射線技師がおり、各医療専門職種がいます。患者さんや患者さんの家族をチーム医療の一員として据え、共に悩み、共に考え、けがや病気の治癒に向かってそれぞれの役割を実践するのがチーム医療です。それぞれの医療専門職種が対等な立場で検査・治療について話し合い、それぞれの医療専門職種が患者情報を共有し、それぞれの医療専門職種が業務の垣根を乗り越え、客観的立場からお互いの専門業務をチェックし合う関係が真のチーム医療です。

本会は真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点から業務拡大に関連する全国統一研修会を開催します。そして国民と協働し、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に育成し、社会的責任を遂行する所存です。皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。